

生物の多様性に関する条約 (Convention on Biological Diversity)

1992・5 採択 / 1992・6 国連環境開発会議 (UNCED) で署名

1993・5 日本が条約を締結 / 1993・12 条約発効 /

<締約国数> : 180ヶ国 (2001年2月現在) [米は未締約]

**条約の概要**

**目 的**

生物多様性の保全

生物多様性の構成要素の  
持続可能な利用

遺伝資源の利用から生ずる  
利益の公正で衡平な配分

**一 般 的 措 置**

生物多様性国家戦略の策定  
重要な地域・種の特定とモニタリング

**保全のための措置**

- ・ 生息域内保全：保護地域の指定・管理、生息地の回復等
- ・ 生息域外保全：飼育栽培下での保存、繁殖、野生への復帰等
- ・ 環境影響評価の実施

**持続可能な利用のための措置**

- ・ 持続可能な利用の政策への組み込み
- ・ 利用に関する伝統的・文化的慣行の保護奨励

**技術移転、遺伝資源利用の利益配分**

- ・ 遺伝資源保有国に主権
- ・ 遺伝資源利用による利益を提供国と利用国が公平かつ衡平に配分
- ・ 途上国への技術移転を公正で最も有利な条件で実施

**共 通 措 置**

奨励措置 / 研究と訓練 /  
公衆のための教育と啓発 / 情報交換 / 技術上科学上の協力

**資金メカニズム**

**バイオテクノロジーの安全性**

- ・ バイオテクノロジーによる操作生物の利用、放出のリスクを規制する手段を確立

**現在の検討テーマ**

**科学技術関係事項**

**主 題 別 分 野**

**横 断 的 課 題**

陸水の生物多様性  
海洋・沿岸の生物多様性  
農業の生物多様性  
森林の生物多様性  
乾燥地の生物多様性  
山地の生物多様性

外来種  
科学的評価  
エコシステムアプローチ  
指標  
世界分類学振興計画  
保護地域

**社会経済、法律関係事項**

遺伝資源へのアクセスと利益配分  
経済、貿易、奨励  
持続的利用と観光  
伝統的な知識  
影響評価、責任と賠償

**実行と展開**

資金 / 情報交換の仕組み(CHM) / 国別報告  
ライブラリー、文書サービス / 教育と普及啓発

**バイオセーフティ**

実行プログラム  
議定書批准の推進

# 生物多様性条約締約国会議(COP)での検討の流れ



